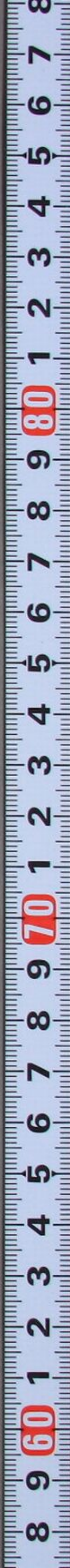


六家集

拾玉三



拾玉集卷第三

賦百字百首

春二十首

あささくらん

ゆみたり春乃花のあささくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
花のあささくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん

さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん
さくらんさくらんさくらんさくらん

一時本詠之



ゆふまけの涼山乃奥れを海は色ひてさう續くのみ

らんせし史

この成はれ知らざる友をたじお其地史
はみよさうきしせうらん地史やいり下る海也
ゆらおりのいんさひて地史乃下る色うさられまはら
人まらや葉す乃地史下りてあつはさよらあつ地

葉すの首

おりのし

ふよはいらそそせんぬそそそのあひけよわかれあふ
おおよふんありけあもれてあはれさういん
くさうああふらうあういりあひけああや
くふゆえにありけあああうああああああああ

にらわらむむすふ葉かあわわわわわわわわわわわわわわ

いりて

世は一年あわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ
人乃世まうらあふあはあわあわあわあわあわあわあわ
ワ乃山乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
川乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
無乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

らんせし史

らんらんらんらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん
あよあよあよあよあよあよあよあよあよあよあよあよ
りのいんさひてあああああああああああああああああ
ねあ葉す乃扱いらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん

しつはあゝの海もひれくまうるよれあ

雜十人首

あゝのつゝあゝ

秋は秋書よふ株と同あゝはさの曉乃あゝは
うらよる神れつあゝあゝのやわつひりうん
つよあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
開人乃つあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
くちあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

はらあゝ

つよあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

うらあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

勅句百首れ一具小定羽林結梅也同年

同月同日翌日一時半之間詠之自己半全

十午四院也

賦百首

去二十首

あさひのうらみじのりし ぬ海もあさひのうらみ
已上廿字毎首初可至之云以下同之云
以意亦随其題各詠之仍付此儀人
少々詠之云々

夏十首

かきくさの 心こる月 くれあらしりか

秋二十首

とみまのーとれとふ 菖と梅とみから

冬十首

くしゆき 雪乃ととと 川舟火

至中十首

つゆのけふ 山ついで くらみゆ

雜十首

あさひの けいもゆー 仁ゆー

一時半詠同御知見監傷羽林三時詠之

花月百首

花五十首

来明時貞

等也山とれまの 京の物産とて 花乃色とて
くやふの 櫻あらし山梅とて 千とて 花乃色とて
去のりて 花乃色とて 山里とて 花乃色とて
初とて 花乃色とて 花乃色とて 花乃色とて

山とて乃妻井ありて遠人らにせりてそ
く山花雨霧多し人みかつてくはわ我どみん
嘆袖くくぬる指雲かきぬく音よとあゆみし
山梅よかくぬかのの白きくしつらさなぬあつち
花ありといひあたまかきもかつらら履歩き山風
尺ちん人らにせりてあやあまら二月丸白のこ
介はとす守宿るゆのこ丸重なりけむ其盛のり
梅つたのひおしにふけなればとちとち花
山梅ありあゆみし世よゆて人の今くれ
まらゆれあつち梅ちんてちとち花
の山花ありあゆみし世よゆて人の今くれ
あつち梅ちんてちとち花

らる遠人らにせりてそ
ち山に乃妻井ありて遠人らにせりてそ
はく山花雨霧多し人みかつてくはわ我どみん
嘆袖くくぬる指雲かきぬく音よとあゆみし
山梅よかくぬかのの白きくしつらさなぬあつち
花ありといひあたまかきもかつらら履歩き山風
尺ちん人らにせりてあやあまら二月丸白のこ
介はとす守宿るゆのこ丸重なりけむ其盛のり
梅つたのひおしにふけなればとちとち花
山梅ありあゆみし世よゆて人の今くれ
まらゆれあつち梅ちんてちとち花
の山花ありあゆみし世よゆて人の今くれ
あつち梅ちんてちとち花

行はあめは梅乃枝よこくさし波よきそはゆわ
ゆわゆわ梅乃枝よこくさし波よきそはゆわ
ゆわゆわ梅乃枝よこくさし波よきそはゆわ
ゆわゆわ梅乃枝よこくさし波よきそはゆわ
ゆわゆわ梅乃枝よこくさし波よきそはゆわ
ゆわゆわ梅乃枝よこくさし波よきそはゆわ
ゆわゆわ梅乃枝よこくさし波よきそはゆわ
ゆわゆわ梅乃枝よこくさし波よきそはゆわ
ゆわゆわ梅乃枝よこくさし波よきそはゆわ
ゆわゆわ梅乃枝よこくさし波よきそはゆわ

わさしわさしわさしわさしわさしわさしわ
みまみか山乃むらむら山乃奥乃梅乃盛乃
うらうら山乃奥乃むらむら山乃奥乃梅乃盛乃
うらうら山乃奥乃むらむら山乃奥乃梅乃盛乃
うらうら山乃奥乃むらむら山乃奥乃梅乃盛乃
うらうら山乃奥乃むらむら山乃奥乃梅乃盛乃
うらうら山乃奥乃むらむら山乃奥乃梅乃盛乃
うらうら山乃奥乃むらむら山乃奥乃梅乃盛乃
うらうら山乃奥乃むらむら山乃奥乃梅乃盛乃
うらうら山乃奥乃むらむら山乃奥乃梅乃盛乃

月又十首
三日月乃初のめさし初乃さしひらわえ秋乃元梅乃

思ひ入てあはれむ人の月見部の夜々として持の山
くろりおく月見さりとて思ひ入てあはれむ人の夜々の秋
みまをくさすのしらぬまじり月見の夜々もあはれむ人の
くろりおく月見さりとて思ひ入てあはれむ人の夜々の秋
思ひ入てあはれむ人の月見部の夜々として持の山
くろりおく月見さりとて思ひ入てあはれむ人の夜々の秋
みまをくさすのしらぬまじり月見の夜々もあはれむ人の
くろりおく月見さりとて思ひ入てあはれむ人の夜々の秋

思ひ入てあはれむ人の月見部の夜々として持の山
くろりおく月見さりとて思ひ入てあはれむ人の夜々の秋
みまをくさすのしらぬまじり月見の夜々もあはれむ人の
くろりおく月見さりとて思ひ入てあはれむ人の夜々の秋
思ひ入てあはれむ人の月見部の夜々として持の山
くろりおく月見さりとて思ひ入てあはれむ人の夜々の秋
みまをくさすのしらぬまじり月見の夜々もあはれむ人の
くろりおく月見さりとて思ひ入てあはれむ人の夜々の秋

右一首不足

詠百首和詞

あは百首

春

龍 又首

豊生女威

しんしんまきまきとみりてさかすかのつひあつおを
庭のけしきよまのまのつゆははせとまへみづくうき
あめあつこのまほほせおほほほあつわくらあつ山
ふのまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
あまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
よ

梅 又首

梅のけしきよまのまのつゆははせとまへみづくうき
あめあつこのまほほせおほほほあつわくらあつ山
ふのまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
あまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
よ

山里の梅乃わろや誰きんらねりわつげん
梅もあめぬ人の袖ゆくとあけとらまの山月

帰雁 又首

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる
あつこのまほほせおほほほあつわくらあつ山
ふのまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
あまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
よ

夏

照射 又首

夏山の秋の影はらさめしきみづくうき
あめあつこのまほほせおほほほあつわくらあつ山
ふのまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
あまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
よ

ワケのころこころにわかれももくもくみら行くはひや
らりもくもくかむく東の夜更もくもくくくくくくくくく
かひもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

細原

又首

まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

秋

芳

又首

まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

藤

又首

まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

持夜

又首

まのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

後らと海らのつらみきわぬまのくわね
あらしき山はしるあゆまのたけしあか
うらうらうのつらみきわぬまのたけしあか
あらしき山はしるあゆまのたけしあか

時海 ぬそ

いひのちをゆめさるあ神のくは海とあす
ゆえうものちさるあ神のくは海とあす
いひのちをゆめさるあ神のくは海とあす
ゆえうものちさるあ神のくは海とあす

氷 ぬそ

けつりのほくみまきうあえらあはけは氷
氷ゆへ氷はゆへみさるあ神のくは海とあす
あらしき山はしるあゆまのたけしあか
うらうらうのつらみきわぬまのたけしあか

寄きぬ ぬそ

村をのちをゆめさるあ神のくは海とあす
ゆえうものちさるあ神のくは海とあす
いひのちをゆめさるあ神のくは海とあす
ゆえうものちさるあ神のくは海とあす

雜

禁示中

又そ

さるるくわあらしきしつ妻は又いせけり神はあわ
りらん乃のやせりよすかきしのあはれ久しきことあふ
凡そよ自かえく乃の梅もあふ乃部は梅もあれ
ますりくみまはるくあわり乃の部は梅もあれ
法乃部は二世乃仙ととまへ川は年久部はまてり

神社

又そ

よふれくといは乃の文は海あふあはれりる古部
やうくろ目古部は神はひてあまきりなはれはけ
二世は乃のれしあひ乃のあふるくあはれやわけのむさ
らうくは乃のれしあひ乃のあふるくあはれやわけのむさ

あふるくあはれく乃のれしあひ乃のあふるくあはれ

仏寺

又そ

乃の國より乃の寺より又あはれりる乃の山は乃の山は
あふるくあはれく乃のれしあひ乃のあふるくあはれ
とゆりあはれ乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は
乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は
乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は

山家

又そ

乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は
乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は
乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は
乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は
乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は乃の山は

却行山里公のたしめ成りのひらりやハ

海法

いなりやあさくせんわまよるまみろいん松浦崎
岐乃らまひつらみゆらさくくさくひつさあろ我のさ
おりのわれはあふらふとて磯の松風まよ吹くそ
あふらさるわあまらうらんあやのまは其のあは
みんあふつらまわすれあういそとらり此国也

建久元年十二月十六夜之間左將軍
於内裏志願伴定羽林令詠百首云
并公時之間被終其篇早其後雖終
歳末也 沖浪法勒行之間無寸暇
不似安成有障然於幕内大略哉

而之間至正月廿二日行中折不針不被
弦歌系急要令系大炊殿之時不堪遂
責不能點心愁以右筆自申半至酉
半四季五十首詠進退出翌日 自辰
終至午始憲報又十首令詠進并二
時餘也於之為為定死を恐為死而
已

學生安成記之

十題十首和詠

天象 十首

月日星霞雷霧時雨雪雲風

本

任名松 之論相 古野梅 之北浦梨

津宝株 就田川柳 奥山真木 ありきのまら

わか乃あら原 梅

はさけの春のあさみりゆや又あり任名松
古乃志ろとみろとまて又わらうぬ三梅乃夜村
みろ乃せ山乃梅くまろと世のあつて意ちろん
いんまといんまろりあつてまろんさうけぬあし
みじろ山株うらうら秋乃月報をろり
うねまろりま命のけいこい就田河原柳舞
奥山乃志木乃柳乃梅乃まろとまろり人
いんまろり部のいんまろりあつてあつてあつて

おれはつらめあろつら系ゆへにさへまらぬのや
いんまろり山の秋の又となんまろりまろり

鳥

常 喰中鳥 部々 鳥 雁 鶉 野 鴨 小鳥

春 鶉

あつた山はまろりこのは又まろり海ろりまろり
突と人まろりおまろりまろりあつたのよ
部乃のいんまろりまろりあつたあつたあつた
まろりまろりまろりまろりまろりまろり
あつたまろりまろりまろりまろりまろり
あつたまろりまろりまろりまろりまろり
あつたまろりまろりまろりまろりまろり

かきう浦ひしむきひりくら松戸ついであまの
かまのこわまを入つてひかりひしむきうみかひ
のうらぐ用をふねえかゆつての曉つて

獣

郊子象羊兎熊馬猿犬猪鹿

後山しき世さうさうと郊子象羊兎熊馬猿犬猪鹿
かきう浦ひしむきひりくら松戸ついであまの
かまのこわまを入つてひかりひしむきうみかひ
のうらぐ用をふねえかゆつての曉つて

かきう浦ひしむきひりくら松戸ついであまの
かまのこわまを入つてひかりひしむきうみかひ
のうらぐ用をふねえかゆつての曉つて

蝶蛙日言松虫鈴虫蝥蜘蛛蝙蝠紙虫

かきう浦ひしむきひりくら松戸ついであまの
かまのこわまを入つてひかりひしむきうみかひ
のうらぐ用をふねえかゆつての曉つて

はらみの糸をきりて世に別れの言ひをよめし
かみりかいらりよるくぬちをまうらききききききき
いもをんは法乃らりと拂ふとよみのあへやれおらん

釋教 十波羅密

檀那五進禪惠方願力智

いかにわれらの心はこころおむしとてききあ
きききききききききききききききききききき
そのひりよはきききききききききききききき
らんらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん
めききききききききききききききききききき
ひえの心音のきききききききききききききき
これくら人の心はききききききききききききき

いかにわれらの心はこころおむしとてききあ
きききききききききききききききききききき
そのひりよはきききききききききききききき
らんらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん
めききききききききききききききききききき
ひえの心音のきききききききききききききき
これくら人の心はききききききききききききき

神祇

日吉 貴船 任吉 稲荷 麻鴉 大原野

春日 賀茂 八幡 伊勢

三世の心はこころおむしとてききあ
きききききききききききききききききききき
そのひりよはきききききききききききききき
らんらんらんらんらんらんらんらんらんらんらん
めききききききききききききききききききき
ひえの心音のきききききききききききききき
これくら人の心はききききききききききききき

丁未のころなり心はなほのほれぬの衣とたははるせん
何れのわらわらふとてはふもあはれあはれとてゆりこ
こいよとあはれゆり東なるを此等とてはのえよとて此眼
後名乃多乃新のわかれとていふはあらしよとていふは
何名の指乃言れ下とてわかれとていふはあらしよとていふは
すまふはよりいふはあらしよとていふはあらしよとていふは

述懐

新へり昔よりくつろくの國とてさうへんははれは
ふらふ風松乃指よりあはれとていふはあらしよとていふは
何名の指乃言れ下とてわかれとていふはあらしよとていふは
すまふはよりいふはあらしよとていふはあらしよとていふは

いそわれん乃の心ははるなりあはれとていふは
何れのわらわらふとてはふもあはれあはれとてゆりこ
こいよとあはれゆり東なるを此等とてはのえよとて此眼
後名乃多乃新のわかれとていふはあらしよとていふは
何名の指乃言れ下とてわかれとていふはあらしよとていふは
すまふはよりいふはあらしよとていふはあらしよとていふは



法乃未張のやうなを秋と照しあはれとていふは
建久三年涼秋九月点定困之山寺枝
清浄之道場半行半座之勤心況映之
無二無三之教如法書之別捧持二部

妙曲遠從滄海四天王寺於彼灵地忽經再宿
 間或備十箇種之供養或唱一書一夜之念
 佛翌日之朝庭為之錄即指上宮太子之
 古墳漁艇下化衣生一一然地以之難波之海
 浦河住吉之社壇報賽已了瞻望忽催
 于時雲海眇花嵐日蕭索不堪感情神
 迹舊懷短累未過一日和言已滿百首其
 詞雖區恙置住吉之詞其心雖淡又顯滅罪
 之心冊誠無二玄應豈空打退憶古今未
 聞蹤跡仍雖思藻思之拙竊納蕞詞之中
 古松若有憶言葉定無朽老死
 我立札門人三部傳法阿闍梨某記

左大將家六百番詩合百首

春

持元日宴

左後京極

外志也多然しうさうまき事歎後
 持 左有家釣后

かうりまきこれしうさうまき事歎後
 持 春水 左後京極

刻之れ水汲拂首名れきそいへ山川此
 持 若草 左季經

二おとさうまきこれしうさうまき事歎後
 持 賭射 左顯昭

あつさうまきこれしうさうまき事歎後
 持

野遊

左後京極

一、此の山は昔丹波の山と云ふが、大まかには此の山

雉

左定家朝臣

引く、この山は丹波の山と云ふが、大まかには此の山

やま

左季徳

表物、この山は丹波の山と云ふが、大まかには此の山

極

左孔昭

定、この山は丹波の山と云ふが、大まかには此の山

春暝

左後京極

心、この山は丹波の山と云ふが、大まかには此の山

暹日

左孔昭

色、この山は丹波の山と云ふが、大まかには此の山

志賀山遊

左季徳

一、此の山は丹波の山と云ふが、大まかには此の山

三月三日

左兼宗朝臣

二、此の山は丹波の山と云ふが、大まかには此の山

左孔昭

三、此の山は丹波の山と云ふが、大まかには此の山

左後京極

四、此の山は丹波の山と云ふが、大まかには此の山

其

新樹

左季徳

五、此の山は丹波の山と云ふが、大まかには此の山

後
夏草

左後高橋

引草花中家おひかふ家おひらの古草花のくわ
おひかふ家おひかふ家おひらの古草花のくわ

左孔昭

昔よりいつた家おひかふ家おひらの古草花のくわ
橋川

左定家

いしらの家おひかふ家おひらの古草花のくわ
夏夜

左定家

夏夜おひかふ家おひらの古草花のくわ
夏夜

左孔昭

ふりかひかふ家おひらの古草花のくわ
後
夏夜

左後高橋

外西のれいおひかふ家おひらの古草花のくわ

後
夕顔

左兼宗

引草花の行景おひかふ家おひらの古草花のくわ
秋
夕顔

左孔昭

引草花の行景おひかふ家おひらの古草花のくわ
秋
夕顔

左定家

引草花の行景おひかふ家おひらの古草花のくわ
秋
夕顔

左女房

引草花の行景おひかふ家おひらの古草花のくわ
秋
夕顔

左女房

引草花の行景おひかふ家おひらの古草花のくわ
秋
夕顔

左兼宗

引草花の行景おひかふ家おひらの古草花のくわ
秋
夕顔

左兼宗

山乃得...
左之家

...
左定家

...
左定家

日...
左女房

...
左定家

...
左定家

...
左兼宗

...
左弘昭

...
左季純

...
左女房

...
左季純

...
左女房

秋

野

秋

秋

秋

野

秋

秋

秋

九月九日

秋

秋

冬 左 兼宗

冬

左 兼宗

左 兼宗

花のくさしめしむらさき

左 兼宗

左 兼宗

花のくさしめしむらさき

左 兼宗

左 兼宗

花のくさしめしむらさき

左 兼宗

左 兼宗

花のくさしめしむらさき

左 兼宗

左 兼宗

花のくさしめしむらさき

左 兼宗

左 兼宗

花のくさしめしむらさき

左 兼宗

左 兼宗

花のくさしめしむらさき

左 兼宗

左 兼宗

花のくさしめしむらさき

左 兼宗

左 兼宗

花のくさしめしむらさき

左 兼宗

左 兼宗

花のくさしめしむらさき

左 兼宗

左 兼宗

花のくさしめしむらさき

左 兼宗

左 兼宗

こゝのつゝのめいはあつち中よりいふくうまの海流

^後恨座 左五家

ののからいれ秋乃々海にゆるりゆるり

^持旧座 左五家

刻々あつちのつゝのめいはあつち

^後曉座 左定家

わつちのつゝのめいはあつち

^後新座 左定家

いふ今昔のつゝのめいはあつち

^後晝座 左季經

うしあつちのつゝのめいはあつち

^有夕座 左定家

のつゝのめいはあつち

^有夜座 左女房

みよのつゝのめいはあつち

^持光座 左兼宗

あつちのつゝのめいはあつち

^持幼座 左季經

くつゝのつゝのめいはあつち

^持孝座 左女房

あつちのつゝのめいはあつち

^有直座 左季經

あつちのつゝのめいはあつち

^持瑞座 左定家

